



染め織り講習会

七月九日(日)に、第二回目の染め織り講習会が行われました。

今回は、「草木染めの講習会」でした。材料は、赤じそ、紅茶、玉ねぎの皮の三種類を使い、班ごとに分かれ、それぞれマフラーに必要な色に真綿を染めていきました。

当日は、気温がとても高く、大なべを使って煮込む事もあり、大変暑い中での作業となりました。ですが受講生の皆さんは暑さも気にせず、集中して作業に取り組んでくれました。

染めた真綿は、各自干して乾かします。次回はよいよこの真綿を紡ぎ、マフラー織りに入っていきます！



夕鶴の里資料館報
平成29年8月20日
第 80号
発行 夕鶴の里
TEL 47-5800

赤じそで染めるグループです。しその葉を細かく切って煮立てます。媒染の違いで、赤と青紫の2色が出来上がります。

★予告！
第2回 昔のあそび
「折り紙で『くすだま』を作ろう！」
9月16日(土)10時～



←完成したブルブルもち。今回はきなこココアをふりかけました。

七月二十二日(土)に、昔のあそび「冷たい『ブルブルもち』をつくらう！」を行いました。材料を鍋に入れ熱を加えてかき混ぜるだけで出来る、簡単おもちゃ作りです。混ぜるコツがいるようでしたが、一回目を経て二回目には、ツヤツヤのおもちができました。ブルブルで冷たくておいしい！と参加者も大満足でした。色んなアレンジをして、ぜひおうちで作ってみて下さいね。

昔のあそび

第18回夕鶴の里

民話まつり



日時：10月1日(日)
午後1時30分開演
場所：夕鶴の里語り部ホール
◇長沢登代さん(元民話会ゆうづる)の語り
◇ゲスト
池野信さん(山形市の語り部)の語り&トーク
入場料：200円(小学生以下無料)

第19回夕鶴の里

子どもまつり



日時：9月24日(日)
午前10時30分開演
場所：夕鶴の里語り部ホール
◇ゲスト
東北文教大学児童文化部
(人形劇、手遊び、パネルシアター等)
入場料：無料

1. 桑を食べ、お蚕さまは何を想う

産卵

卵には粘着液がついていて、一つ一つ蚕紙にくっつくようにして、卵が重なり合わないよう産卵します。

孵化・1 齢

生まれてすぐの蚕は毛が生えて毛蚕(けご)と言います。

交尾

この時、オスとメスがなかなか離れない場合がある為、人の手で離してやることも。これを「割愛」と言います。

2～4 齢

食べては休んでの繰り返して大きくなります。

ふ化

繭から脱出したカイコ蛾。飛ぶこともできず、口もありません。

5 齢

幼虫の間は桑の葉を食べて糞をしますが、排尿はしません。ところが、繭が完全に出来あがる前に一度だけ排尿し、繭の中を汚さないようにしま

さなぎ 絹になる

繭づくり



こうして生まれた幼虫は、4回脱皮をして成長します。ふ化から1回目の脱皮までを1齢といい、繭作り直前までは20～25日ほど。成長するにつれ幼虫は食欲を増し、5齢で一生の9割分の食事をします。そのうちピタリと食べなくなったら、繭作りの開始の合図。この時、蚕の体の中は「絹糸腺」といって絹を作るためのタンパク質が入っている袋でいっぱいですが過剰な蓄積は有毒になるため、糸にして吐き出し、繭を作るのです。

蚕にとって繭作りは一世一代の大仕事。幼虫は2～3日かかりで糸を吐き続けます。繭が出来あがると、中で幼虫が蛹になり、10日後位にカイコ蛾に成長して繭から出てきます。では一体、カイコ蛾は、繭からどのようにして出てくるのでしょうか。食い破って出てくるという説もありますが、カイコ蛾には口がありません。すでに口に似た器官があり、そこから酵素液を出して繭をほぐし、糸と糸の間を押し分けて出てきます。そして羽化が成功すると、すぐにメスはフェロモンを出してオスを呼び寄せ交尾します。そうしてメスは500粒ほどの卵を産み、約2カ月の一生を終えるのです。

一方、繭から糸をとる場合は、繭の中で蛹が蛾になる前に、熱風乾燥などで羽化を止めます。中の蛹は死んでしましますが、この死骸は昔から鯉や鶏の飼料などに活用されてきました。こうして1つの繭からとれる糸は約1500メートル。私たちが使う1本の絹は、6から7個の繭から作られています。

(次号へ続く)